

学生プロレスの歴史と魅力

History and attraction of college pro-wrestling

1K03B218-0 渡邊 純一

指導教員 主査 リー・トンプソン 先生 副査 石井昌幸 先生

《はじめに》

学園祭でおなじみのイベントである「学生プロレス」は総合格闘技の台頭によって、世間での人気低迷が叫ばれる現在でも、学園祭の規模によっては1000人を超える観客を動員する目玉企画である。

その歴史は30年近くに及び、老舗プロレス団体である新日本プロレスと全日本プロレスが2007年に35周年であり、遅れること5年余りである。

プロレス好きの学生というつながりによって、30年近くに渡って受け継がれた学生プロレスは、大学を飛び出し、大きなイベントや、テレビ出演なども果たしたエンターテインメントなのである。

本書は学生たちの手作りで、また学生たちがプロレスラーとなって試合を行う学生プロレス興行の歴史とその魅力を検証するものである。

《第1章》

・学生プロレスとは

学生プロレスが誕生からどのように発展し、また、どのように活動し、どのような運営をしているのか紹介する。

I. 学生プロレスの歴史

学生プロレスの誕生は1987年。同志社大学、東海大学、一橋大学、日本大学の学生らによって創立されたプロレス研究会が発端である。

現在では、関東、関西、九州に所在する大学のプロレス研究会が単独、もしくは連盟を組んで学園祭を中心に学生プロレス興行を開催している。

創生期と今日では、雰囲気も形態も様変わりしているものの、プロレスが好きな学生たちが集まってプロレスを楽しんでいるというのは変わらない。プロレス界の変化に連動するように学生プロレスも変化している。

II. 学生プロレス興行

プロレス用のリングを所有している団体、リングを業者からレンタルする団体、ビールケースや体育用マットなどを使って手作りのリングを使用する団体がある。

リング、会場設営及び撤去も全て学生たちで行い、レスラー、レフェリー、実況、解説、撮影など、全ての役職を持ち回りで担当する。

III. 学生プロレスの運営

基本的に入場料などを徴収する有料興行は行わないが、

学園祭や、地域イベントなどで出張興行を行う際には、主催者側から出演料をいただいている。

リングの保管、搬送などで発生する諸経費は出演料で相殺し、不足分は学生が負担している。

《第2章》

・学生プロレス興行を検証する

I. プロレスと興行

スポーツ興行はサイド・ストーリーを理解していなければ、楽しさは半減する。特に、プロレスはサイド・ストーリーを過剰に生産しているジャンルである。

II. 学生プロレスと興行

学生プロレスの観客はほとんどが一期一会の観客である。それは学生プロレスが単独イベントではなく、母体となるイベントの中での企画のひとつだからである。

そういう環境下であるため、学生プロレスにサイド・ストーリーを持たせることは意味をもたない。

こうした状況下での興行は、大道芸と共通する。

《第3章》

・学生プロレスを大道芸の側面から検証する

I. 学生プロレスの特徴と大道芸で留意する点9項目

大道芸人・鶴飼正樹が打ち出した大道芸で留意されたい9項目「わかりやすさ」、「カッコよさ」、「笑い」、「愛嬌」、「色気」、「しつこさ」、「少しばかりの物足りなさ」、「舞台と客席の境界の侵犯」、「下手さ」に学生プロレスが持つ特徴と独自性をあてはめて検証する。

II. ゼニになる芸

観客を満足させるために鶴飼は「自分のやりたいこと」より「客のよろこぶこと」をねらうこと、「上演の「場」になじむこと」、「上演の「場」をつくること」、「ウケる客をすばやく見つけること」、「舞台と客席との境界をこわすこと」、「メリハリがあること」、「どこかに「スキ」があること」、「「エンディング」の工夫」の8項目を挙げた。学生プロレスのどんな要素が当たるか検証する。

III. 考察・提言

これらをまとめて提言する。

《おわりに》

学生プロレスはプロレス界からタブー視される風潮があったが、今ではそれも薄れている。学生プロレスもプロレス復興への足がかりとなりたい。